

# SNS を通じて報道されるメディア・スポーツとメディア翻訳

多々良直弘(桜美林大学)

## 1. はじめに

現代社会において、インターネットなどの情報技術の発達が個人間のコミュニケーション方法を変化させただけでなく、ジャーナリズムやメディア報道を激変させたことは疑いの余地がない。またこの情報技術革命はスポーツ報道の分野にも大きな変革をもたらすこととなった。スポーツとスポーツを報道するメディアは融合し、メディアを抜きにしてスポーツを語ることはできないわけだが、グローバル化する世界に伴い、世界各国の代表が参加する国際大会のみならず各国で繰り広げられるスポーツイベントが、通信技術の発展により様々なメディアを通じて我々のもとへ配信されるようになった。近年では世界中で行われているスポーツの試合が、従来のメディア報道に加え、英国の Perform Group が運営する「DAZN (ダ・ゾーン)」などでスポーツライブストリーミングにより放映されるようになった。また、各国の放送局や新聞社のホームページでは、スポーツイベントを逐一 Twitter でライブブログを投稿し、視聴者に情報を配信している。さらに、Twitter などの SNS を通じて専門家やメディア関係者たちによって試合中や試合直後に試合の動画と共に報道されるようになっただけでなく、MLB や NFL を代表とするスポーツ団体やメディア報道に携わっている個人が Twitter の公式アカウントから情報発信をすることが年々増え続けている。これらの英語で発信された情報を元に各国の新聞社や雑誌、インターネットメディアが翻訳を通じてスポーツの試合情報を日々発信している。日本社会においても英語で報道された情報が日本語へ翻訳され、我々の元へと届けられるのだが、メディア翻訳を通じて我々の元へ発信される情報は、原文の言及指示的意味や文字通りの意味しか報道していないことが多く、社会指標的意味を伝達する表現や背景知識やコンテキスト情報がないと理解できない表現については、正確にその意味が伝達されていないのが現実であるということが指摘できる。本研究発表は、Twitter などの SNS やその他のインターネットメディアを通じて報道されるメディア・スポーツとメディア翻訳の特徴を分析することを目的とする。

## 2. メディア翻訳とメディア・スポーツ報道

現代社会においては情報技術の発展に伴い、様々なコンテンツがグローバル化の流れの中で世界各地で配信されるようになった。ニュース報道をとっても、従来の新聞、テレビ、ラジオなどの媒体を通じてだけでなく、同じコンテンツがインターネットを通じても報道されるようになってきている。更には世界各地の新聞社などの報道機関がインターネット上で公開したニュースを他国のメディアが翻訳を通じて視聴読者へと届けるようになった。坪井 (2013:122) は世界中のニュースがメディア翻訳を通じて日々我々の元へ届けられている中で、「翻訳がジャーナリズムの一環として機能し、編集と翻訳が切り離せないほど一体化している」と述べ、「trans-editing」という語が使用されるようになったことを指摘している。この“trans-editing”の過程において、メディア翻訳ではヘッドラインやリード・パラグラフの内容の変更や情報の削除や追加、段落構成の変更などニュース報道において様々な翻訳と編集作業が行われているのである。

我々が日々消費するメディア・スポーツにもメディア翻訳が密接に関わっている。我々はスポーツの試合をスタジアムで直接体験することもできるが、大多数の人々は実況中継やニュース報道などのメディアというフィルターを通じて、メディアによって編集されたメディア・スポーツを消費する。スポーツとスポーツを報道するメディアは融合し、メディアを抜きにしてスポーツを語ることはできず、またメディアも社会におけるスポーツの重要性や人々の関心の高さを軽視することはできず、視聴読者たちが求めているであろう情報を世界各地から収集し、記事を作成する。近年では情報の現地性と即時性が非常に重要性を持つようになり、実況中継だけではなく、新聞社や出版社などがスポーツの試合のオンライン・ライブテキストやスタッツ (試合統計)、選手の評価や論評をオンラインで配信し、その情報をもとに各国のメディアがニュースコン

テントを構成するのである。我々が日常的に触れるメディア・スポーツに関する情報は増え続け、試合や選手、チーム状況などに関するあらゆる情報が報道されているとすることができるだろう。

例えばサッカーのイングランド・プレミアリーグのアーセナルに所属している日本代表ディフェンダーの富安健洋選手の活躍が日々報道されているが、2022年1月に行われたプレミアリーグ第21節マンチェスター・シティー戦後には、富安選手の活躍がイングランドの様々な現地メディアで報道された。そして、日本の各種メディアがその報道内容をもとにメディア翻訳を通じてインターネット上で記事を配信するのである。(1)は *Squawka*, (2)は *London Evening Standard* と *Independent*, (3)は *Squawka* と *London Evening Standard*, (4)は *Football Insider*, (5) *The Sunday Times* と *Skysports* の記事をもとに構成されている。

- (1) 「トミヤスには勝てなかった」スターリング封じの富安にチーム最高評価！「特に10人になった後のプレーは…」(『Soccer Digest WEB』 2022年1月2日)
- (2) コロナ回復後に強行出場の富安健洋、劇的敗北を悔しがるも現地メディアからは軒並み高採点&賛辞！(『The Digest』 2022年1月3日)
- (3) 「リーグ最高のフルバック」アーセナル富安、シティー戦の“封殺”ディフェンスを海外絶賛(『Football ZONE WEB』 2020年1月4日)
- (4) 「衝撃的。31億円以下なんて安すぎる」アーセナルOBが富安健洋を大絶賛！(『GOAL』 2022年1月4日)
- (5) 富安健洋はプレミア最強マンCにとって「極めて厄介な存在」だった…名将ペップも認めたアーセナルの成長とは(『Number WEB』 2022年1月6日)

このように現地のメディアが報道する記事をもとに様々な情報を翻訳を通じて報道することが、現在のメディア報道の大きな役割であるといっても良いだろう。

### 3. SNSによるメディア・スポーツ報道とメディア翻訳

SNSの発達により、スポーツはTwitterなどを通じて専門家やメディア関係者たちによって報道されるようになった。各国の放送局や新聞社のホームページでは、スポーツイベントを逐一ライブブログを投稿し、視聴者に情報を配信しているだけでなく、Twitterを通じて随時情報配信をしている。また報道機関だけではなく、MLBやNFLを代表とするスポーツ団体がTwitterの公式アカウントから情報発信をしたり、スポーツ関連のメディアに携わっている個人がTwitterを通じて情報発信をしたりすることが年々増え続け、その情報を元に各国の新聞社や雑誌、インターネットメディアが翻訳を通じて情報を発信するのである。更に選手たちがTwitterで発信した情報をもとにニュースコンテンツが作成されることも頻りに観察される。

例えば、イングランド・プレミアリーグの第17節ウェストハム対アーセナルの試合後に、メディア関係者のChris Wheatley記者が自身の公式Twitterで動画と共に(6)の文章を投稿し、その投稿をもとに日本のメディアが(7)の記事を作成し、配信している。

- (6) Arsenal players straight over to Tomiyasu at full time who is limping - a tireless shift from him and the #AFC players today. (Chris Wheatley@ChrisWheatley (Twitter) 2021年9月19日)
- (7) アーセナル富安のもとヘチームメイトが次々と “美しい光景” が話題「感動」(『Football ZONE WEB』 2021年9月19日)

また、近年ではこれまで報道される側であった選手や監督たちがSNSを通じて情報発信をし、メディア報道側はこのような選手たちのTwitterの情報をもとにインターネットを通じて情報発信をすることもある。以下の事例は元サッカー日本代表の香川真司選手がPAOKというチームを退団するにあたり、Instagramで投稿したテキストである。従来であれば報道側の取材を通じて得られていた情報が、選手たちから情報発信がSNSを通じて行われ、その情報をメディアが翻訳を通じて発信することになる。

- (8) Dear all of PAOK supporters, players and authorized people. I apologize that I couldn't fill your expectations. I really appreciate for your support. Best wishes and thank you.
- (9) PAOK のサポーター、選手、そして関係者の皆様へ。期待に添えず申し訳ありません。本当にありがとうございました。よろしくお願いいたします。(『超ワールドサッカー』 2021 年 12 月 23 日)
- (10) PAOK サポーター、選手、そして関係者の皆様。期待に添えず申し訳ございませんでした。皆さんのサポートに心より感謝しています。ご多幸をお祈りします、ありがとう。(『サカノワ』 2021 年 12 月 23 日)

野球の本場であるアメリカの MLB で日本人プレーヤーが活躍するようになって久しいが、日本人プレーヤーに関する情報も試合ごとに各社のホームページや Twitter などを通じて発信される。その英語で報道された情報が日本語へ翻訳され、我々視聴読者の元へと届けられる。サンディエゴ・パドレスのダルビッシュ有選手やロサンゼルス・エンゼルスの大谷翔平選手を始めとする選手達はアメリカ合衆国のメディアにも常に注目されており、様々な表現で賞賛されている。特に 2021 年シーズンは二刀流選手である大谷への注目は別格で、“Shohei Ohtani “cannot be expressed by the word “special””.” (Portalfield News 2021 年 7 月 20 日) (「大谷翔平 (の素晴らしさ) は「特別」という言葉では表現できない。」(『FullCount』 2021 年 7 月 21 日) などのインターネット記事などに加え、MLB の公式 Twitter には “Shohei Ohtani continues to amaze.” (「大谷翔平は我々を魅了し続ける。」) という投稿が画像と共に投稿されている。そのほか、Twitter では “talented”, “brilliant”, “incredible”, “amazing”, “spectacular”, “never the same”, “totally unique”, “completely not ever been done before” などの様々な表現によって賞賛されている。

また、これらの肯定的な意味を持つ表現に加え、Twitter には大谷選手やダルビッシュ選手が活躍する場面の動画とともに、本来否定的な意味を表す “insane”, “nasty”, “ridiculous”, “sick”, “unfair” などの表現が選手たちのプレーを賞賛する際に使用されることが観察される。

- (11) Angels Pitcher Shohei Ohtani has absolutely insane inning with arm, bat.  
(NESN 2021 年 4 月 6 日)
- (12) Shohei Ohtani, Ridiculous 83mph Slider.  
(Rob Friedman@Pitching Ninja (Twitter) 2021 年 7 月 20 日)
- (13) Yu Darvish, Sick 79mph Curveball. (Rob Friedman@Pitching Ninja (Twitter) 2021 年 7 月 4 日)

このような一見否定的な意味を表す表現は、口語表現として「非常に良い」ことを表し、選手たちを賞賛する際に使用される。Akmajian 他 (2001:31) も述べているように、アメリカの一部のスラングにおいては、bad という語は「意味の逆転 (reversals)」が起こり、“emphatically good (「非常に良い」)” の意味で使用されるが、(11) から (13) の事例においても同様に意味の逆転が起こっている。(11) の insane は「最高だ」の意味を表し、英語では “awesome” や “incredible” と同義であると言えるだろう。(12) の “ridiculous” は “unlikely” や “unbelievable”, “outstanding” のように通常では不可能なことを表す。また、(13) の “sick” は “incredibly good” や “excellence” の意味を表す。Sick という語は “Kershaw throws a sick sinker” (カーショーは素晴らしいシンカーを投げる。) のように広く使用されるが、スポーツ以外の文脈、例えば音楽などの分野においても “Eric Clapton's blues riffs are really sick.” (エリック・クラプトンのブルースのリフは本当にすごかった。) などのように話し言葉において広く使用される。

これらの Twitter による情報発信が日本のメディアによって翻訳をされ、我々の元へと届けられるのであるが、坪井 (2017) が指摘している通り、これらのメディア翻訳は翻訳や通訳に関する専門的な知識を有している専門家ではなく、“Journalator” (van Doorslaer 2012) と呼ばれる、翻訳作業を日常的に行なっているジャーナリストたちが (推測するに翻訳サイトや機械翻訳を使って) 行っているのである。以下はこれらの英語の表現が日本のメディアによって翻訳され、報道されたものである。

- (14) 腕とバットで、完全に常軌を逸したイニングだった。(『The Digest』 2021 年 4 月 6 日)
- (15) ショウヘイ・オオタニの馬鹿げた 83 マイルのスライダー。(『The Answer』 2021 年 7 月 20 日)
- (16) 脅威の変化に「吐き気を催す」ダルビッシュ、たちの悪い 79 マイル (127.1 キロ) のカーブボール (『Full-Count』 2021 年 7 月 22 日)

(14)では“insane”が「常軌を逸した」, (15)では“ridiculous”が「馬鹿げた」, そして(16)の“sick”が「吐き気を催す」や「たちの悪い」としていずれも否定的な表現で翻訳され、本来の肯定的な賞賛の意味が欠如している。

世界中のニュースがメディア翻訳を通じて日々我々の元へ届けられている中で、坪井 (2017: 57) は「メディア翻訳の場では、メディア翻訳を異なる言語間の等価的情報伝達に過ぎないとみるコミュニケーション・イデオロギーがいまも支配的である」と指摘しているが、本研究でのメディア翻訳の分析を通じて、これらのメディア翻訳では口語表現において起こる意味変化のプロセスの一つである意味の逆転が起こっている場合のような表現についても翻訳することができてないことが指摘できるだろう。

#### 4. おわりに

昨今のインターネットなどの情報技術の発展に伴い、伝統的な新聞や雑誌などのメディアが 1990 年代からオンラインでニュースコンテンツを報道するようになり、世界中で報道されるニュースがメディア翻訳を通じて日々我々の元へ届けられるようになった。またメディア報道における環境が劇的に変化する中で、Twitter や Instagram などの SNS を通じた報道により、メディア側が自ら取材を通じて得た情報を視聴者へ配信するだけでなく、他者が発信した情報が報道されたり、双方向の情報配信が行われたりするようになった。そしてこれまで取材される側の選手や監督たちが配信した情報をもとにメディア側がニュースのコンテンツを作成することも観察され、メディア報道の構造が日々変化しているということができよう。またメディア翻訳の過程において情報の取捨選択が行われたり、坪井 (2013; 2017) が指摘している通り社会指標的な意味が伝達されていなかったり、更にはコンテキストに応じた言語表現の意味を翻訳できていないことが現状として指摘できるだろう。

#### 参考文献

- Akmajian, A., Demers, R. A., Farmer, A. K., and Harnish, R. M. (2001). *Linguistics: An Introduction to Language and Communication* 5th ed. Cambridge, Massachusetts, London, England: MIT Press.
- Beard, A. (1998). *The Language of Sport*. London, New York: Routledge.
- Chovanec, J. (2018). *The Discourse of Online Sportscasting: Constructing Meaning and Interaction in Live Text Commentary*. Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Fowler, R. (1991). *Language in the news: Discourse and ideology in the press*. London: Routledge.
- Krone, M. (2005). *The Language of Football*. Stuttgart: ibidem-Verlag.
- 坪井睦子 (2013). メタ・コミュニケーションとしてのメディア翻訳—国際ニュースにおける引用と翻訳行為の不可視性— *社会言語科学*, 19(1), 118-134.
- 坪井睦子 (2017). メディア翻訳の社会言語学— ニュース・ディスコースにおける翻訳とイデオロギー — 井上逸兵 (編) 朝倉日英対照言語学シリーズ[発展編]1 *社会言語学*, pp. 43-60.
- van Doorslae, Luc (2012). Translating, Narrating and Constructing Images in Journalism with a Test Case on Representation in Flemish TV News. *Meta* 57(4), 1046-1059.